

JBC 文部科学大臣杯第30回全国高等学校対抗選手権

12月23・24日/津グランドボウル

男子・首里東が盤石の初V 女子・綾瀬西が前年の雪辱



▲優勝の首里東高(左)と綾瀬西高

例年年末に行われるのが恒例となっている全国高等学校対抗ボウリング選手権大会だが、第30回を迎えた今大会は、12月23、24の両日、三重・津グランドボウルで行われた。男子は沖縄県立首里東高が初優勝、女子は神奈川県立綾瀬西高が2年ぶり2度目の優勝を飾った。(主催：公益財団法人全日本ボウリング協会)

男子・沖縄勢3校が決勝進出

男女それぞれ予選9Gを投球、上位8校が決勝トーナメントに進んだ。

55校が出場した男子は、5月のNHK杯を制するなど今季大飛躍を遂げたエース・座波政斗選手を擁する沖縄県立首里東高(宮城・座波・下地)が、同じ沖縄の県立中部商業高に141ピン差をつける4151の1位で



男子準優勝・取手第一高

「4フレぐらいから力が抜けていい投球ができただけで、めっちゃ悔しい」と柳田選手



「ラインは見えていたけど、緊張でそこに投げられなかった。来年リベンジを」と宮本選手

男子優勝・首里東高



「予選の1回戦から調子がよくて、決勝もそのイメージのまま投げられた」と宮城選手

予選を通過した。3位の茨城県立取手第一高をはさんで4位にも沖縄県立那覇商業高と、決勝進出8校中3校を沖縄勢が占めていた。

首里東高は、決勝トーナメント1、2回戦を危なげなく突破して順当に優勝決定戦に進んだ。反対のゾーンでは、2回戦で取手第一高が、終盤のストライクラッシュで中部商業高を439:413と逆転で下して優勝決定戦に進んだ。

首里東高と取手第一高の対

戦となった優勝決定戦は、座波選手が「他の沖縄県の高校のみんなの応援も心強かった」と、6フレからのオールウェーで245を叩けば、相方の宮城快仁選手も「あまり緊張もなくて、いつもどおりのボウリングができた」と、214にまとめた。一方、柳田祐路選手が「序盤はラインを見つけられず探りながらの投球だった」、また宮本拓実選手は「緊張で自分の理想のフォームで投げ切ることができなかった」と振り返った取手第一高を、チームトータル459:389で退けた首里東高が会心の初優勝を飾った。

女子・前年と同じ両校の対決

「高校対抗に出るために濱崎さんと誘い合ってこの高校に入った」と崎山穂花選手。昨年は準優勝で3連覇の望みは断られたが、「絶対に優勝を取り戻して卒業したかった」と濱崎りあ選手。その意気込みどおりに、予選を快調に飛ばした神奈川県立綾瀬西高が、同じ神奈川



女子優勝・綾瀬西高

「3連覇はできなかったけど、去年めっちゃくちゃ悔しかったので、こううれし」と崎山選手

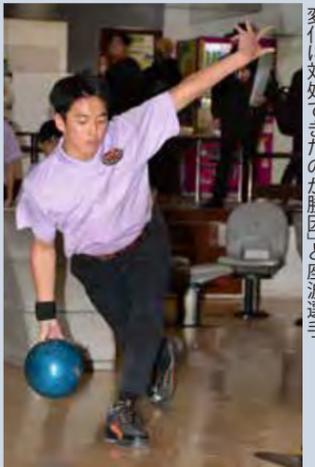


「大会をとおして⑩ピンのカバーミスがなかったのは、成長できた点かな」と濱崎選手

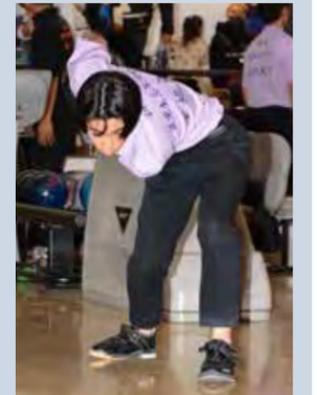
の大和東高に400ピン余りの大差をつける4021で、文句なしの1位通過を果たした。ディフェンディングチャンピオンの群馬・前橋市立前橋高は、渡辺希哩選手が「綾瀬西とは優勝決定戦まで当たりたくなかった」の思惑どおり、決勝トーナメント反対のゾーンに入る3位でクリアした。

決勝トーナメント1回戦を難なく突破した綾瀬西高は、首里東高との2回戦は「1回戦のレーンと違いすぎて…」166と苦しんだ濱崎選手を崎山選手が233を打ってカバー、399:374で勝ち進んだ。一方、前橋高も2回戦は大和東高を408:356で退けて、連覇へ向けて順調に歩を進めた。

前年と同じ対戦となった優勝決定戦。前橋高は1、4、5フレと前半で3つのスプリットで苦しむ渡辺選手を、大野萌葉選手が1フレから5連発でカバー、約2マーク差で食い下がる。崎山選手が8フレからダブルで突き放しにかかる綾瀬西高は、濱崎選手の9フレ「ストライクが欲しくて…、ボールを出しすぎた」と5本カウントでオープン。前橋高の渡辺選手は「6フレからスタート時のボールに戻した」のが功を奏して、8フレからダブルで逆転への望みをつないだが、10フレは無情の⑩ピンタップ。綾瀬西高が416:396で昨年のリベンジを果たし、2年ぶり2度目の優勝を飾った。



「チームでコミュニケーションをとりながらレーンの変化に対処できたのが勝因」と座波選手



▲決勝は出番がなかったが、予選1位通過に貢献の下地選手。来年は宮城選手とともに連覇を目指す



女子準優勝・前橋高

「優勝決定戦がいちばいいボウリングができた。去年の経験も大きかった」と大野選手



「10フレ⑩ピンタップは自分では完璧だったけど、うまく投げすぎたのかも」と渡辺選手



▲男子入賞校、左から優勝・首里東、2位・取手第一、3位・中部商業、4位・日体大荏原、5位・那覇商業、6位・弘前工業、7位・大分工業、8位・大分



▲女子入賞校、左から優勝・綾瀬西、2位・前橋、3位・首里東、4位・大和東、5位・札幌東商、6位・金沢龍谷、7位・名古屋大谷、8位・千葉学園